

霞ヶ浦の成り立ち

年 組 番

名前

霞ヶ浦は、大昔（10万年前）は海でした。海が陸地に深くはいりこんでいた入江が霞ヶ浦だったのです。川の上流の方から長い時間をかけて運ばれてきた土やすなが入江につもって、湖になったといわれています。このように、もともとは海の入江であったところが残ってできた湖を「海跡湖」といいます。

霞ヶ浦がほぼ今のようになったのは、およそ1500年前から2000年前ごろといわれています。そのころの広さは今の2～3倍もあり、海水が入りやすい湖でした。

その後、1600年代のおわりごろ江戸湾（今の東京湾）に注いでいた利根川の流れを変える大きな工事が行われ1700年代に利根川は銚子（千葉県）で太平洋に注ぐ今の流れとなりました。このつけかえ工事により、たくさんの土やすなが利根川の下流や霞ヶ浦の南東部につもって新しい陸地ができました。

そして17世紀の中ごろに、霞ヶ浦は海とのつながりがわるくなり、現在の利根川と霞ヶ浦の姿になりました。

